

「2004年国際O-CHA学術会議」にてカテキンの研究成果を発表

**カテキンの胃粘膜障害保護作用、  
茶カテキンの血清コレステロール値に及ぼす影響 など**

11月3日～6日 静岡にて開催「世界お茶まつり2004」プログラム

株式会社伊藤園(社長:本庄八郎 本社:東京都渋谷区)の中央研究所は、11月3日～6日に開催される「世界お茶まつり2004」の「2004年国際O-CHA学術会議」にて、茶カテキンの作用に関して研究成果を発表いたします。その発表題目と概要は以下の通りです。

**【発表題目と概要】**

**「熱処理した茶カテキンは、コレステロール腸管吸収を茶カテキンよりも効果的に阻害する」**

九州大学との共同研究。茶カテキンはガレート基を有するガレート型カテキン(エピガロカテキンガレートなど)とガレート基を有しない遊離型カテキン(エピガロカテキンなど)に分かれるが、そのうちガレート型カテキンおよびその熱異性体(ガレート型カテキンが熱処理によって変化したもの)が、コレステロールを含んだミセル(粒)に及ぼす影響ならびにリンパ吸収に及ぼす影響を検討。その結果、試験管レベルにてコレステロールと結合して沈殿をおこすことや、ラットにおいて腸管からリンパへのコレステロール吸収が阻害されることがわかった。ガレート型カテキン、なかでも熱異性化ガレート型カテキンが高いコレステロール吸収阻害作用を持つことが明らかになった。

**「茶カテキンの血清コレステロール値に及ぼす影響」**

茶カテキン(ガレート型カテキン)を含む飲料(1本250mlあたり茶カテキン197mg)を男女60名が摂取したところ、血清コレステロール値およびLDL-コレステロール値の有意な低下が認められた。これにより、茶カテキンのうちガレート型カテキン配合飲料がヒトの血清コレステロール改善に有用であることが明らかになった。

**「カテキンの胃粘膜障害保護作用について」**

日本大学歯学部との共同研究。ラットに水浸拘束ストレスを与えた。コントロール群では胃粘膜障害が誘発され胃粘膜の出血が認められたのに対し、茶カテキン溶液を摂取させた群では胃粘膜障害が顕著に抑えられた。これにより、茶カテキンが胃粘膜障害保護作用を持つことが明らかになった。

当社の中央研究所では、カテキンをはじめとした緑茶主要成分についての機能とその利用に関する研究、また、その有効性を現代的な科学技術の観点から検証する研究を、自社または研究機関との共同により進めております。伝統的な食品素材である緑茶の内なる機能を見つけ出し、新たな光を当て、今後とも新しい価値を創造すべく研究を行ってまいります。